

講演

『ロータリー財団を理解し、活用しよう』

ロータリー財団部門委員長 富岡義勝氏（八戸RC）

どうも皆さんこんにちは、宜しくお願いします。

今年度のIMはどここのクラブも天気に災いされているようで実は3週間前に南分区の方で…私ガバナー補佐もやっているのでもIMをやりました、その時の講師先生が釧路ロータリークラブのバスターガバナーの方をお呼びしておりました、そうしましたところ、その前の晩、大雪になりまして大変な思いをして講師の方にはいらっしやって頂きました。



皆さんは釧路から青森へ来るのに、どのようにして来るのかご存知でしょうか、これが釧路から羽田に飛んで新線で八戸に来るのが1番効率が良いそうです

ところがその大雪で前の晩に飛行機が飛ばないことが分って、その方はどうしてくださったかと言うと、釧路から札幌、函館を経由して11時間かけて夜行電車に乗ってくださったそうです

私は知らなかったもんで翌朝に「今青森に着いた」と言う連絡を受けたときにはよくぞここまでやって頂きましたという感じでした。

その時はあまり感じなかったのですが、もしもこのタイミングで来て頂けなかったら大変なことになるということが後で痛切に感じました。

今朝八戸は大雪でございまして8時の新線に乗ってこちらに来たんですが普通に着いて良かったなと思っております。

ロータリーというのは様々な人に支えられてやっているのを感じています。芳賀ガバナー補佐は今年度のガバナー補佐の中でも兄貴分のような方でございます、何でもきちんと仕事をなさって私などは及びもつきません、今日は、この様な場にお呼び頂きますと本当にありがとうございます。

また、青森モーニングクラブの会長、実行委員長を始め皆様には大変ご苦勞様でございます。

なんとかこの使命を果たす様にやりたいと思いますが、先程の松本ガバナーの、お話がずっしりと肩にのしかかっています、財団の話自体が固い話なのでリラックスして話をさせて頂きたいと思っております。

元財団運営委員長の珍田さんもおいでですし、北山セレクトは、こないだ初めて知ったのですが2回ほどこの財団委員長をなさっているという事を知りまして、少し昔の事も話をしようと思っているので間違ったことがあるかもしれませんが訂正して頂ければと思っています。

身近になかなか感じられないことに寄付ということがあると思います。

財団の寄付というのは厳しく取り建てられる年貢のような気がしてどうにも馴染めないということもあるのかと思いますが、財団委員長になるまでは、さほど気にしもしていなかったのですが、寄付0クラブが無いように苦心してきた3年間でありました。

ちなみにこの分区はガバナー補佐ならびに各クラブの財団委員長さんがきちんとお仕事をなさっていますのですでに寄付0クラブはありません。

中でもこの5クラブの中に、地区内40クラブの中でトップを走っているクラブがございます、青森中央ロータリークラブです。

さすがにガバナーを輩出されているクラブで頑張っているらしいです。

実は去年小山内年度の時に青森中央ロータリークラブの一人当たりの寄付額で行きますと4位だったんですから大変頑張ってくださいしております。

ただ財団の表彰をするときにはその年の額の大きさではなくて前の年から、いかに頑張ったかが評価のポイントになっているようございます、表彰のほうは私は関わっていませんで、ガバナー事務所で計算をするので…

前の年よりいかに頑張っただけで伸ばしてきているかが表彰の対象になるので青森中央ロータリークラブさんにとっては前年4位だったので更に頑張らないと地区表彰にならないということですから、これが不合理なのか適正なのかいろいろ議論があると思いますが、総額になると大きなクラブには、かなわないですし1人単位の事だと頑張りを認めたいということで行ってるのだと思います。

ただ去年頑張らなかったクラブは今年がチャンスです（笑）

ただお金集めと言うと委員長さんもしやな仕事になると思うのですが、今までの経験で、これは良いなと思ったのがピチャイラタクルさんが財団管理委員長の時にこんな言葉がありました「ロータリー財団のモットーは世界で良い事をしようということですが、良いことをするためには少しばかりお金が必要ですから、皆さん少しだけ寄付してください」という趣旨のお願いをされた時に、これならなんとかいけるんじゃないかなと思いました、そういうことですから協力するつもりで1人100ドルだとかポリオにいくらだとかと言うと抵抗があるのですが、これからも寄付をお願いしたいと思います。

ちなみに身近に感じようと言うことはロータリー財団の事をよく知らないといけないという気持ちがあります、この中には知らない方が無いと思いますが、国際ロータリーとロータリー財団は別の組織になっています、これは一心同体ですが組織が違います。

よく国際ロータリーはR Iと言われますがロータリー財団はどうでしょうかこれはTRFというのだそうですTHEロータリーファンデーションと言います。

国際ロータリーは組織が違いますので自ずと役割分担が違います、国際ロータリーはロータリーの方針だとか、目標だとか実際の運営について決め事をしてのに対してTHEロータリーファンデーションはそれを資金でも支えていくので、国際ロータリーで決めた方針に対して資金を提供していく事業を実際に行くのがロータリー財団だと思ってください。

財政状況はどうなっているのかとよく聞かれます、セミナーを開くと大体どのようにお金を使っているのかを聞かれます、比較みたいな形で聞けば割とをびんとくると思います。

みなさんはロータリーの会員でいる以上、人頭分担金を国際ロータリーに納めています。

国際ロータリーは人等分担金を元にして運営していて、財団の方は寄付の種類がいろいろあります、国際ロータリーは約1億ドル100円換算で100億円、財団の方はいろいろな寄付金を集めて3億ドル、約3倍になっています100円換算で300億円です。

ロータリアンは世界に何人いると思いますか120万人います、120万人が50ドルは払わなければならないのですが、内訳を見てみると約60%がこの人頭分担金でまかなわれていて後は投資収益が20%、リーマンショックの損失は次の年ぐらいでほぼ解消しているようです、今はだいぶ良い状況のようですので投資収益が30%ぐらいのようです。

国際ロータリーのトップはRI会長ですが、あと17名からなる理事ですが、財団のトップは財団管理委員会だそうです財団の委員長はRI会長経験者です、そうすると力関係からすると財団の方が強そうです、まあそれはあまり関係ないのですが前にも言いましたが一心同体ですから問題はありません。

国際ロータリーはいつできたかといいますと1905年に発足しています、ではロータリー財団は何時からなのかといいますと、アーチクランプという人が、国際大会で提案をしてお金を集めようとしたのですがその時はほとんど集まらなかったようですが、それは1917年です1905年の国際ロータリーからその7年後に出来ているのです、ですから2017年は100周年になるのです。

組織投資は別組織ですがロータリー財団の方も創立100周年を目の前にしているいろいろ財団のあり方とか見直しをかけているのが実情です。

一つの表れが「未来の夢計画」です。

なぜ「未来の夢計画」が必要なのかと言いますと、いろいろなプログラムを作って寄付とかをしてきたんですが普通事業というものはスクラップ&ビルドが原則ですから何か1つの補助金の事業を考えたら、それがある程度のところで役目を果たし終わったら、次のところに、というのが皆様の会社でもやる事だと思います。

しかし財団はやってこなかった。

今までは、ただ作るだけで、やたらプログラムが多くなってしまい、それに係る人件費事務費が膨大になってしまっているというところに気がついて理事会で有識者がそれを指摘していたらしいのですが…

そこでもっと簡素化して重点的にロータリー財団を良いものにしようというのが「未来の夢計画」というものです。

原語ではフューチャー・ビジョン・プランと言ってFVPと呼ばれています、お気付きになったでしょうか、どこにも夢なんて入っていません訳す時に「未来の夢計画」と訳した人の心意気を感じられて私は大好きです、ただ最近「奉仕の理想」はおかしいから「奉仕の理念」にするとかいろいろ言ってますが私は意外とズボラの性格ですから夢がある方が好きですから、この「未来の夢計画」が気に入っています

松本ガバナーが先程言われたとおり2010、11、12年、とこの3年間試験プログラムとして全世界で100できたんです、その中で手を挙げた我が地区が選ばれて東京、京都、名古屋、埼玉、岡山これはもう財団の寄付額のベストテンにいつもTOP5に入るようなそういうところ、2830地区はどの辺にあるかというところからTOP5に常に入っているのではないかと…、先程松本ガバナーから小さいところは小さいなりに、実は選ばれている、そうそうたる他の地区に比べて最初は引け目というかそういう感じがしなかったわけでは

ありません

小さい所は小さいなりに支援を出してやっていけばいいと考え方を変えました、そうしたところ、大きい所は図体が大き過ぎて内部のまとまりが悪かったりしていましたが、我が地区は補助金を活用するにあたって問題なくうまくできたと自負もございます。

新地区補助金ですが給付額がどうだこうだと言うのではなく知恵の出し合いと言う事を1番最初に考えていただきたいと思います。

何か目のつけどころが違うモノが高く評価されるきものであって、うちのクラブはお金を出していないからと気兼ねすることはありません



ちなみにこの「未来の夢計画」というのは3つ目標がありまして1つには事務費人件費の経費節減、2つ目は地区の裁量権を拡大する、いい響きなのですが実は地区の仕事が増えているという事も有ります、アメリカ式で事務の仕事全部するのが、ちょっと大変です、3つ目は財団としての地位を高めるということです、いわゆるこのような組織が世界でランク付けされている、ちなみに

ロータリー財団はベストテンには入っているのですが6位か9位にランク付けされているようです、コレを上げていくのが目的になっているようですが、それが目的なのか疑問を持っています

当然広報だとか宣伝だとか、そういうところに力が入ってきます、2005、6年のころですがCLPというのが各クラブに來ましてビックリしたことがありました。

なんでこんなに広報だとか財団に力を入れるのか、これは国際ロータリーの方針で、財団もその時から似たような流れの中で動いていたようです。

国際ロータリーのほうもロータリー財団のほうも今発表されているものは6つの重点分野が大きなものとして出てきます。

ロータリーの友とかで目にしてらっしゃると思いますが、1つ目は平和と紛争を解決。2つ目は疾病予防と治療。3つ目が水と衛生設備。4番が母子の健康。5つ目が基本的教育と識字率向上。6つ目は経済と地域社会の発展。

この6つの重点分野をやっていこうとしていますが、今まであんまり焦点を絞らずに、なんでもプログラムをやってきた事の反省から、こうなったんだろうなと思いました。

試験期間中わたしたちで新地区補助金でやってみようと思ったときに気がついたことが有りました。

それは途上国の現状には身近なところにこの6つの分野の問題があると思いますが、先進国にはもう無いので補助金は使えない、6つの重点分野は途上国に限られてしまう、暗にロータリーで集めた資金は途上国に使おうよという意図があるように思います

この6つの重点分野も不合理な点があるのです、実は国際親善奨学生というのが歴史の制度を作っているのですが、ポールハリスが亡くなった時に全世界から基金にお金が行くよ

うになって始まったと言われてます

皆さんのクラブでも国際親善奨学生を出したことがあると思いますが、例えばドイツ、ウイーンに行って音楽を勉強して来るとか、それからイタリアに行って芸術を学んでくるとか、そういう人を排出しようとしたクラブもあると思います、ところが6つの重点分野のどこにも当たらないのです。と言う事はそこには奨学生は行けないという事になります、これはとんでもない事だと思います、やはり芸術だとか音楽だとかで留学したい人の門は閉じられてしまっている、そんなことを是正するための試験地区の役割でもあったのですが、なりませんでした。

気の毒ですが音楽を勉強したい芸術を勉強したいという方はアウトになります、ちなみに私も恥ずかしながら国際親善奨学生でオーストラリアに派遣して頂きましたのでその節は大変ありがとうございました。

私は社会学を勉強していましたが、多分これも今はダメです
名前を高めるために限ってしまうというのは寂しい思いです。

大学生の時留学をしたいと思っていたので当時いろいろな奨学生を見てみたのですが1番良かったのがロータリーとトヨタ財団の奨学金でありました、ロータリーはあまり知らなかったのですが親戚のおじさんがロータリクラブに入っていたので願書を取っていただいて書類選考が通って秋田のホテルに呼ばれ面接を受けまして5人選ばれました

若気の至りで、行ってしまえばなんとかなるだろうとオーストラリアに着いたところ、ホストクラブカウンセラーにあたる人がパストガバナーでして週末ごとにロータリーの、あちこちに連れて行って下さいまして、面白かったのは6月か7月になるとチェンジ・オーバーナイトというのが地区の中で行われます、7月の新しい年度をお祝いするというのでして、6月は大学が休みになっていたのですがMr. ロータリーのパストガバナーの車に乗せられ6泊7日で一つ一つのクラブを訪ねて例会に出てホームステイをしました。

これはとんでもない事でした。

実は私は英語が無縁の生活をしていたんです、行ってみたら3ヶ月ぐらいは全然わからなかったです。

3ヶ月ずっと駄目だったんですが、スイッチが入ったように英語が入るようになりました、3月に授業が始まって6月の末ですから少しは良くなっていたのですが、まだ話もろくにできない私を息子のように可愛がってくれるロータリアンがとても素晴らしいと思いました。

いろんな人がこの奨学生を通じて行ってくれば良いのですがシステムというのは壁があって、今回も6つの重点分野でないと行かせてもらえない、そこで財団奨学生は大事にしなければならぬと今、後継の奨学生を地区補助金でやろうとしています。

オーストラリアにいたときMr. ロータリアンという人が識字率向上運動の事業を一生懸命やっていました。私が1987年に帰る時にタイに行って識字率向上の教育をやっていたのを後で知りました。

それから何年かして私が38の時ロータリーに入会した事を報告するといちばん喜んでくれました。それから識字率向上の資料が毎週送られてくるようになり、当時の島村ガバナーに申し上げたところ、それからやるようになりました。

ちなみにロータリーの友11月にタイへの識字率向上運動が3年間で全部の学年を終了しま

した、これをグローバル補助金で行いました、

グローバル補助金は1年後ごとに1万5,000ドル、我が地区が支払います。するとロータリー財団も1万5,000ドルつけてくれます、現地タイのロータリークラブが5,000ドル、ロータリー財団から5,000ドル付けてくれて、1年につき4万ドル、3年で12万ドル、の大きな事業することができました。ロータリーの友をぜひ読んでください。

資金の流れの話ですが、1人100ドルというのは、昔は1万2,000円でしたが今は8千とか9,000円です(レートにより)1人が1万円寄付したとしますと内の地区は1,000人ちょっとですから1,000万ロータリー財団に送られます、それはDDFとWSの二手に分かれ、まず500万、500万に分れてしまいます、考えやすいのが500万は地区に帰ってきます、もう500万は財団で使います。これは世界のために良いことに使われるのだから、私たちは取られっぱなしでもありません、その一部は私たちが申請している補助金で帰ってきます。

では地区には500万ありますそれはグローバル補助金に半分以上使いなさい、そして地区補助金に半分使いなさいとなりますと250万ずつになります

実はそれに更にプラスがあります、それは恒久基金の利息、恒久基金というのは年次給付と違って元金は手をつけないで利息だけを使うということになっています。

とりあえずは250万それが17クラブとか18クラブから申請が有って、だいたい1クラブに12万円から15万円くらい平均で活用をして頂いているというのが資金の流れです。

新地区補助金が250万円あってそれを使い切らないで次の年にそれを使ってもいいんじゃないかと考えますよね、ところが250万円は使えなければその翌年は新地区補助金には使えない、グローバル補助金に使いなさいという通達です、これは途上国で使いなさいということですですから新地区補助金はコミュニティーのために使えばいいのですが、そうではなくてグローバル補助金に行きなさいという関係になっています。

ですから今までの3年間は新地区補助金の方は先程言いました12万円から15万円くらいの形で使うということになります。

芳賀ガバナー補佐から強く言われたのが活用しようということでお話をしてくれということでしたので皆様のお手元に小さい紙を用意してあります。

ここに書いているのは一般的な基準でして、こういう風なことだけは守らなければいけないということです、必要などだけピックアップしたのですが7番の「ロータリー財団章典の補助金参加者の利害の対立に関する方針」これを遵守する事と有りますが、よくご質問を受けるので説明します。

これは簡単に言いますとロータリアンが受益者になってはいけないということです、これはもっともなことだと思います、ところが今日は青森クラブの木村さんがいらっしゃってますが実は木村さんが会長の時、エコボックスをつけたいという事がありまして、その時にロータリアンの関係会社にそれをつけるという事が問題になって…、それがこの受益者にあたるということになりました、

ロータリーの補助金を使ってエコボックスをいろんなところに置きますが、それをロータリアンの事務所の前に置くのは受益者に当たるということなんです、気が付かずにやってしまう事があるので気を付けなければなりません、

それから制約事項に関して言えば地区補助金を使ってロータリーの青少年交換だとかライラ、ロータリーの友情交換、ローターアクト、インターアクトを支援する事はできない

し、他の寄付金に充てることもできない、これは当たり前のことですね

制約事項の1番に特定の受益者、団体、地域社会に対する継続的または過度の支援。と言うのもございます、これは我が地区は結構危ないところを綱渡りしています、例えば内のクラブなのですが、「かるた会」と言うのをやっています、新地区補助金を使ってトロフィーとか賞状とかをやったこともあるのですが、継続的な過度の支援、ずっとこのクラブで柔道大会を後援していた、これを毎回毎回同じ事をやっていたとすればまずい事になるし、5番目の募金活動と言うのは何ですか？と言うことですが、例えば補助金を使ってお祭りの時にどこかにブースを出すのにお金がかかった、ブースの中で被災地に物を送るために行った事はこれに入るといことです。

後は9番他のところ現金給付をしてはいけない、それから11番では ロータリー以外の団体が主体となって開始した活動、これは当地区では結構綱渡りしていると思います、どこかと共催みたいな形になって…、お金の部分ではロータリーの方が大金を出しているから主催をしているという解釈で何とか補助金をつけていると言った事もあります

そんなところを注意してやらなければならないという事もあります

この紙(配付資料)はガイドラインですから、気を付けなければならないことの各項目だと思ってください、みなさんこれから新地区補助金でも地区補助金でも、どんな事をこれからやったらいいのかを、お考えになるとと思いますが、こう考えてください。

補助金を持ってして出来るものではなくて、地域が必要としているものを見つけてください。これは重要なことです

例えば12万円か15万円しか貰えないんだったら、これをしようという考え方ではなくて、まずは皆さんの地域、町内に何をしてあげれば一番良いのかと言う事を見つけるのが先決です。

ちなみにロータリーとは何ですかと聞かれた時にすぐに奉仕団体ですと答える人がいると思います、私も最初はそうでした、でもしばらく勉強してみると大阪のPastorガバナーで塚本さん



という方がロータリーは奉仕団体では無いと、はっきり答えています。なぜかと言うと、我々は奉仕団体としてはあまりに弱小すぎる、要するに1つのクラブが10万円とか15万円とか使ってやるにしても金額が小さすぎる、それから人材も実業人ですから会社経営しながらやっていますから、今のNPOを考えてみてください彼らはそれを専門にやっていますからすごく効果的、効率的です、例えば災害の時1番分っていたのは彼らではないかと言われていました、ですからロータリーというのはどこで発揮するのかと言うと、さっき言いました知恵比べと言いますか、目のつけどころ、何がこの地域に足りないのかというところで考えるのがいいのだと思います。古い話ですが1923年に決議2334と言うロータリーの社会奉仕に関する声明が出されていて、その中に書いてることなのですが、「ロータリークラブは地域社会に存在する問題を見つけて出す事はしても、それがその地域社会全体の責任に関わるものの場合にあっては単独に手を下すことをしないで、他の人々にその解決の必要をさとらせる努力をし、地域社会全体にその

責任を自覚させて、それがロータリーだけの責任にならないで本来その責任のある地域社会全体の仕事になるようにする。ロータリーは事業を始めたり指導をしたりするのが、一方当然それに関心を持っていると考えられる他のすべての団体の協力を得るように協力すべきであり、そして当然ロータリークラブに記すべき功績であっても、それに対する自分の力を最小限度に評価してそのすべての協力者の手柄にするようにしなければならない。」

なんと1923年にここまで書かれていると言うことです。決議2334というのは非常に気に入っているやつでございます。

あちこちにLLクラブというのがありますが、あちらは団体奉仕、ロータリーは個人奉仕ということによってます。

1番最初にこんなことが書いてあります、「ロータリーは基本的には1つの人生哲学でありそれは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいと今いう感情の間に常に存在する矛盾を和らげるようとするものである」

これが私は気に入ってましてという事は、奉仕そのものの結果を求めるのではなくて、目のつけどころ、ここでは何が必要かというものを発掘してそしてそのために週2万円とか15万円とか使って、後はその地域が自分で持続して行かれるようにするのが実はロータリーのなすべきことだと感じています

ローマ法王が体力に自信がないということで辞任されました、あれを選ぶのはコンクレベと言うそうです。私はこの地区補助金のつかいかたというのはロータリーのチェクレベだと思っていますですから、額が小さいとか気にせずに、地域にとって一番良いことをすれば広報でも取り上げてくれますので、ロータリーの広報にとってもよろしいし、更に良い事には、良い事をすれば私もこのクラブに入りたいと言う人が出てくると思います、実際に有った事です。三戸ロータリークラブという10名程のクラブがあるのですがそこで川の源流を綺麗にしましょうと地区補助金を使い活動しました。そしたら、そこに参加して頂いた方から2名入会希望者が出てきました、ですから良いことをしていればクラブにとってもいいし全体のイメージ向上にもつながるし会員の増強にもつながる、これはミラクル1200これが我が地区の最大の目標になっていますから、こういう我々が出来る事を前面に出してやっていくということが肝心だと思います

要は、目のつけどころとか賢く、知恵比べをしてみる事が財団を活用してみるという事に大事だと思っています

例えば、週2万円とか15万円とかが少ないなと感じている人は隣のクラブと組めばいいんです、青森のどこかで問題が発生しているという事であれば、解決するためにもう少しお金が必要であれば、例えば青森東さんと北東さんとモーニングさんと組んで、代表クラブが必要だと思いますが3クラブで組んでやれば財政的にも人的にも良いということになります、それから青森クラブさんは京都南ロータリークラブと姉妹クラブですから、そこと一緒にやるということも、よろしいかと思えますし、他には海外のクラブなんかと一緒にやっていると新地区補助金に限らずグローバル補助金のようなやや大きな仕事をするときでもネットワークを使ってやるのが面白いかと思えます

ですからガバナー補佐も今年はこれで出来なくなるのですが、次年度もずっとこれから先まで続きますから今年できなくても、共同事業と一緒にやるのもいいと思えますよ、実は被災地復興支援委員会というのがあって、そこで地区補助金をとって被災地の支

援をしたことがあります。松本ガバナーがおっしゃったとおり福島は大変です、ただ単純に津波とかだけではなくて原発がありますから本当に大変です、財団の復興基金もすでに終わってます。ですから地区補助金だとかあるいはグローバル補助金を被災地に向けると開けてくる道もあると思いますからコンクレーベしながらチエクレーベして一緒にやっていくというのが楽しい方法ではないかと思います。

まとまらない話で申し訳ありませんがこれで終わりたいと思います。

どうもありがとうございました。

